



業務システム入力を自動化

RPAソフト「Ui-Linker」を開発

株式会社ユーコン

製造現場とともに事務部門にも生産性向上を——。ユーコン（埼玉県越谷市、☎048-960-5880）は、業務システムの入力作業をロボットが行うRPA（Robotics Process Automation）ソフト「Ui-Linker」を開発、段ボール企業で実証テストを開始した。エクセルやcsvのデータをソフトが読み込んで、入力作業を自動で行うもので、同社の他ソフトと連携させることで、受注や入金などの事務作業の無人化が可能となる。

効率化とサービス向上が実現

RPAは、政府が主導する働き方改革でも事務職の残業抑制の重要なツールと位置づけられている。RPAは人が行ってきた業務プロセスを大きく変更することなく導入できるのが魅力。総務省が2017年に実施した調査では、大

企業を中心に国内では14.1%の企業が導入済み、6.3%が導入中という結果が出ている。

ユーコンは、中小企業が導入しやすい低コストのソフト開発をテーマに掲げている。Ui-Linkerは、現在の入力プログラムをそのまま使用でき、入力に関する細かな処理定義を登録可能。処理定義はユーザーで設定するため、入力プログラムに変更が発生した場合も、ソフトの定義情報の調整により容易に対応できる。導入に際しては月額方式を採用しており、小規模事業所にも導入しやすいコスト設定となっている。

同社はUi-Linkerの上市に伴い開発ソフトを「Linkerシリーズ」として再構築した。複数のソフトの活用により大幅な効率化が実現する。たとえば、図1のような仕組みを導入することで、受注入力業務はほぼ無人化・自動化されるうえ、24時間のサービス体制も実現する。

図1●受注入力業務における活用例

